



## 火 災



ています。この「八分」という時間は、火災になったあなたの家から隣の家に延焼し、さらに町中に燃え広がってしまふのを防ぐのに必要な時間として設定されているのです。消防力が整備されている都会では、五〜六分もすれば消防自動車がやってくると期待しても大丈夫です。しかし、それでも「五〜六分」という時間は、火災に襲われているあなたにとっては長過ぎる時間です。

あなたの家族や財産を「今」助けることができるのは、あなた自身と近所の人しかいないのだ、ということをお忘れないようにしてください。

### 一一九番は最寄りの消防署に着信しているとは限らない

一一九番通報をすると、「火事ですか？ 救急ですか？」という問いかけに続いて「何町何丁目何番地ですか？」と聞かれます。この時「何を寝ぼけているのっ！ お宅のはす向かいの〇〇パン屋ヨッ」などと怒鳴る方がいます。



この方は一一九番通報はてっきり最も近い消防署にかかっているものと思っっているのです。これは、間違っていることが多い、と思ってください。

一一九番通報は、その地域の消防本部の指令センターにかかるのです。東

京の場合は二三区ならすべて大手町の東京消防庁指令室に入ります。そこから、火災に最も近い消防署や出張所に改めて出場指令を出し、必要に応じて救急隊、特殊車両の出場や応援部隊の増強などの指令をしているのです。中小都市の場合も、いくつかの町が共同で消防本部を作っている場合が多いので、複数の町村にただ一つの指令センターしかなく、一一九番通報の処理を一括して行っていることが多いのです。所番地を明確に言わないと、どこが火災現場かわからないのは当然のことなのです。

## 決め手は早期発見と初期消火、 危なくなつたらすぐ脱出

火災が発生してしまったとき、その被害をできるだけ少なくするには、できるだけ早く発見して消火してしまうことが大切であることは言うまでもありません。でも、危なくなつたらすぐ脱出することはもっと大切です。



火災は次第に大きくなる

建物全体が炎上するような大きな火



災も、町全体を焼き尽くすような市街地大火も、いきなりあのような大火災になるわけではありません。ガス爆発だとかタンクローリーが突っ込んで来るなどという特別なケースを除けば、あなたが遭遇する火災はすべて小さな火から始まります。

普通の火災は、「火源」となるたばこの火やレンジの火が、なんらかの理由

- 早く発見して早く消火するのが理想
- 天井が燃え出したら無理せず、戸を閉めて、すぐ避難する

により紙屑や布、場合によってはてんぷら油などの「着火物」と接触することから始まります。

紙屑や布、油などは、火が着くと次第に炎が大きくなり、やがて付近にある家具調度類などに燃え移り、さらに壁から天井に燃え広がっていきます。

こうなると本格的な火災です。部屋の温度はどんどん上がり、内部にある木材などの可燃物の温度も着火温度に近づいて、可燃性のガスが発生するようになります。やがてこれらの可燃物や可燃性のガスが燃え出します。条件次第では、これらが一斉に発火して、部屋の温度やCOの濃度が急激に上昇し、酸素濃度が急激に低下する「フラッシュオーバー」と呼ばれる現象が起ることもあります。

フラッシュオーバーが発生すると、



## 火 災

その部屋の内部にいる人はもちろん生きていくことは出来ません。また、フラッシュオーバーが発生すると急激に室内空気が膨張しますから、窓ガラスが割れて新鮮な空気が吹き込み、さらに燃焼が激しくなることもありますし、そこから煙や有毒ガスが建物内部に拡大していくきっかけになることもあります。

こうして小さな火源が着火物に接触することから始まった「火災」が、建物全体に広がる大きな火災に発展してしまうのです。

### 早期発見と初期消火が最も大切

火災がこのように徐々に大きくなっていくものだということを理解すれば、火災が発生した時の対処方針はおわかりでしょう。そうです。なるべく早く火災を発見して、まだ火が小さいうちに消火してしまえばよいのです。

紙屑や布が燃え出したばかりの頃は、消火するのは簡単です。消火器などを使うまでもなく、コップ一杯の水

でも消せますし、足で踏みつけたりタオルでたたいたりしても消火できます。家具調度類が燃え出したり、壁に火が着いたりする段階になると、そう簡単ではありませんが、まだバケツの水でも消火することができずし、消火器ならまず確実に消すことができます。

要するに、火災はできるだけ早く発見して早く消火を始めるほど、消火できる確率は高くなりますし、あなたの身体や生命の危険も少ないのです。

### 天井が燃え出したらすぐ脱出する

火災の発見や消火が遅れて、天井が燃え出すような段階になるとやっかいです。天井が燃え出すということは、やがてフラッシュオーバーが発生して部屋中が一気に火の海になる、という前兆現象として考えなければならぬのです。したがって、天井が燃え出すと思ったら、すぐその部屋から脱出した方が賢明です。フラッシュオーバーに巻き込まれたら、まず助からないからです。



このとき、火災になっている部屋のドアを閉めてから逃げることを忘れてはなりません。ドアを閉め忘れると、火災はそこから建物中に広がります。煙や有毒ガスもあなたを追って来ます。初期消火をしようとして失敗して死亡するケースでは、フラッシュオーバーに巻き込まれる場合と、火災室のドアを閉め忘れたために逃げきれずに煙に巻かれてしまう場合が多いのです。

## 普通火災と電気火災の消火の仕方

出火した場合は、燃えているものに  
応じ、落ち着いて消火することが大切  
です。特に電気器具の火災などは、感  
電の恐れもありますので、電気を切っ  
てから消火するようにしましょう。

### 家具調度類が燃えているとき

家具調度類に使われている可燃物  
は、普通、木材と布や紙及びプラスチ  
ック類です。出火後一〜二分以内で、し  
かもこのような物質が燃えているのな  
ら、普通の家庭用の粉末消火器で比較  
的容易に消火することができます。

普通の粉末消火器は一五秒程度で消  
火剤がなくなってしまうから、火  
からあまり離れているのに放射を始め  
ると失敗します。姿勢をある程度低く  
して近寄れる所まで火に近づき、燃え  
ている部分（炎ではない）めがけて消

火剤を放射します。

粉末消火器の使用方法については、

「消火器具を備える」（二八五頁参照）

でも述べましたが、

① 安全栓を抜く

② できるだけホースの先端を持って

火元に向ける

③ レバーを強く握る

という三動作で消火します（二八六頁

図1参照）



● 水や消火剤は、燃えているものに  
かける

プラスチック類が燃えると、木材な  
どが燃えるのに比べてはるかに大量の  
黒い煙が出ますし、強烈な刺激臭もあ  
りますが、「消火してみよう」と思う程  
度の段階なら、煙を吸っても死ぬこと  
はないはずですから、煙や臭いに惑わ  
されずに落ち着いて消火することが大  
切です。

ふすま、板壁が燃えている  
とき

ふすまや板壁は垂直に立ち上がって  
いますから、火が着くと短時間のうち  
に炎が大きくなるのが特徴です。

ふすまや障子は、蹴り倒すことがで  
きれば消火が楽になります。ふすまや  
障子は表と裏が同時に燃え上がります  
し、炎も大きいので惑わされますが、  
迷わず蹴り倒してください。



## 火 災



板壁を水で消火する場合は、燃えている部分のやや上の方から半円を描くように水をかけていってください。また、粉末消火器で消火する場合は、燃えている部分から上の方に向かって消火剤を放射していきます。

表側が消えても裏側に火が残っている場合がありますから、必ず裏側まで消えていることを確認してください。確認できない場合は、念のため裏側にもよく水をかけておくとよいでしょう。

### 電気器具が燃え出したとき

日本では、電気器具から出火する火

災は諸外国ほど多くありませんが、内部に高電圧、高温の部分を持っているものもありますし、ショートしたりする可能性もありますから、それでもかなりの数の電気器具火災が起こっています。

電気器具が燃えているときは、いきなり水をかけてはいけません。感電する恐れがあります。粉末消火器で消火するか、コンセントからプラグを抜いたりブレーカーをおとしたりして電気を遮断してから水をかけます。器具の内部で燃えている場合は、消火剤や水がかかりにくいので完全に消火することができませんから、下火になってか



ら内部にもよく消火剤等をかけるようにします。なお、ブラウン管などは急に冷やすと破裂する恐れもありますから、直接水をかけないようにしてください。

電気こたつから出火した場合、あわてて布団をはぐと酸素が供給されて急に燃え上がる恐れがあります。まずプラグを抜いてから、布団の上から水をかけ、燃焼を抑え込んだ後で布団をはいで消火します。



# てんぷら油火災の消火の仕方

てんぷら油火災は、家庭の中で最も起こりやすい火災ですが、最も消火しにくい火災でもあります。てんぷら油火災用の「家庭用消火器」を備えるようにしましょう。

## てんぷら油火災は家庭の出火原因のトップ

日本では出火件数は長期的には減少傾向にありますが、放火による火災とてんぷら油火災の件数だけは増加傾向にあります。特に家庭における出火原因としてはてんぷら油火災が最近ずつとトップの座を占めています。これは、冷凍食品の普及などにより、家庭で揚げ物をする機会が増えたためだと考えられています。

てんぷら油火災は、このように家庭では最もポピュラーな火災なのです。



が、最も消火しにくい火災でもあるのです。

揚げ物をする時の油の温度は180℃前後ですが、加熱を続けると次第に温度が上がって油の蒸気が出始め、さらに加熱を続けて油の温度が450℃前後になると発火温度に達して発火します。

油温を180℃から450℃まで上昇させるにはかなり時間がかかりますし、その

●台所にはてんぷら油火災専用消火器を備えておく

間に多量の油蒸気が発生して猛烈な油の臭いがしますから、料理中にてんぷら油が発火するほど加熱してしまうことはありえません。てんぷら油火災が発生するのは、揚げ物の最中に、火をつけたままその場を離れてしまい、しばらくして気がついた時には出火している、という場合に限られるのです。

## 水は禁物

てんぷら油火災が発生した時、水をかけることだけは絶対にしてはいけません。水が急速に気化して膨張し、燃えている油とともに爆発的に飛び散ります。大やけどを免れませんし、火災が燃え広がるきっかけにもなっています。